

第19回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会議事録概要

会議の名称：第19回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会

開催の日時：平成24年3月22日（木） 午前9時～11時20分

開催の場所：鳥取県庁 特別会議室

出席者氏名：別紙出席者名簿のとおり

会議の概要：以下のとおり

1. 業務実績評価（年度評価）に係るウェイトについて

審議結果

資料1に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定。

主な意見

委員	主な意見	意見に対する回答、対応
谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> 鳥取県では1万人の職場の創造というのが何よりも大きな目標として提示されているが、センターではそれを反映したような、ある程度時代の流れに即したような項目に毎年重点項目を置き換えるのも一つあると思う。 再就職しようとする方への心構えをご指導いただくような、現状に即したオリエンテーションの実施等もこの評価項目に入れ、かつ、時代を反映したようなウェイトを置いていくことも考えていただければ柔軟性があって、時代に即した物ができるのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 中期目標・中期計画では、個々具体的な時代に即した案件は想定しておらず、ある程度大きな項目の中でそれぞれの時代に即した物も取り込んでいけるようなものになっているのが実態であると思う。（事務局） 個々具体的には、評価項目の中の技術支援、試験・分析とか研究テーマの設定と実施という中で網羅していくのがよいのではと思っている。この部分については、やはり、他の部分よりはウェイトは重くなっている。（事務局） 技術支援等という大きなくくりの中で具体的な項目についても対応していき、それが、さらに24年度の具体的な計画の中に盛り込まれていくという形になっていると思う。（事務局） 再就職に対する心構えに関しては、やはり労働政策の範疇だと思う。（事務局）
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> やはり雇用創出のためには新しい事業を作らなければならないのは明らかなので、新規事業を企業が始められるためにどれだけサポートできるかということで、鳥取県の1万人の雇用も実現できてくると思う。 センターの立場からいくと、今は緊急事態ととらえるのなら、新規事業の立ち上げに対して技術開発の中心がセンターにあるぐらいの踏み込みというようなものがあっても良いのかなという感じがする。 研究開発で言えば、センターが独自に研究していることや特許を、いかに事業にするのかという部分までセンタ 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にはやはりそこまで考えるべきだと思う。実用化研究では、特許を出し、その後成果普及という形で興味を持たれる企業を呼んで事業化するための手を挙げてもらう。そして製品化されれば、あとの販路先まで例えば産業振興機構のノウハウをいただきながら、私どもは技術的な分野で関わっていく。（センター） 県内企業を見てみると、研究費を自社で払ってというレベルではない。この実態を見てもセンターとしてはなかなか新規事業の立ち上げを支援していけるような状態ではないと感じている。（センター）

	<p>ーの中でアイデアを考え、道筋をつくり、半分は企業側にお金を出してもらってそれを事業化するというくらいの提案までできると、具体的に産業の役に立つのかなと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・センターとしては、技術的レベルを高めるなど実践的人材を養成し、良い製品を造る等企業のレベルアップに協力させていただいているつもりである。(センター) ・現在、境港の食品開発の部類が早く製品化になると考えている。(センター)
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長の問題意識が込められている項目というのが、新規事業の創出や新分野立ち上げを目指す事業者の支援の項目などに入ってくるということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そうである。ただ、県内には地場産業があるということも意識する必要がある。新しい分野と既存の分野とでウェイトをどのようにつけていくかが今回のウェイト付けに現れていると思っただけならありがたい。(センター)
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の日々のサービスの様な部分にウェイトは圧倒的に置くということか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター設立目的の 産業技術に関する試験研究及びその成果の普及、ものづくり分野における技術支援、人材育成等積極的に展開するということが基本である。(センター)
房安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的にはものを作り上げて結果としてお金が動かないことには、センターにお世話になった成果が出ないと思う。ものを売るには企業自体が必死に動かないといけないが、その後ろには、研究するための資金源がない。その部分は県のサポートがあればありがたい。あとはものを売ると言うことは我々が本当に汗水を流していかないといけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国内でも売れるものを造るような技術支援が必要。センターは売れるものを考え意識して取り組むことが必要。(センター)
房安委員	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの役割としては、論文の数で勝負というのではなく、現場主義の研究者、それを中心とした連携を取りながらの成果を上げるという方向性を望んでいる。 	

2. 業務実績報告書の様式見直しについて

審議結果

資料2に基づき事務局より説明し、議長が委員に諮り、異議なく出席委員一致で、原案のとおり決定

3. 今後のスケジュールについて

資料3に基づき説明し、特に意見なし。

4. 産業技術センター平成24年度事業計画について

資料4に基づきセンターより説明。

主な意見

委員	主な意見	意見に対する回答、対応
谷口委員	<ul style="list-style-type: none"> 報道機関等で鳥取県の造成した土地に太陽メガソーラーをつくる計画があるのであれば、ビジネスとして鳥取県自らがやってはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> メガソーラー企業の進出は企業誘致として取り組んでいるもの。担当部署に伝えておきたい。(事務局)
辻委員	<ul style="list-style-type: none"> 選ばれている研究テーマを見た感じとして、やはり必要性という部分の中におそらく色々な要素があるはずで、その部分が明確でないような感じがする。 私が思うのは、新規性とか競合が既にここまで進んでいるとか、お金も人も少ない中で競争相手に勝つための研究をするためには、テーマの数はしっかり絞り込んで、将来価値が生まれてくるような物を、調査や先見性をもって設定してやっていく方が将来勝てるということになっていくのではないか。今世間がやっているようなことを横並びでやると負けてしまう可能性が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 十分に意識をして査定等において有効に使わせていただきたい。(センター)
房安委員	<ul style="list-style-type: none"> 商品を世に売り出す条件のひとつに、人材力、経済力等全てが整って世に出せる状態になると思う。その要はやはり人材力だと思う。そのためには新しい人を入れて育てる必要があるが、県内中小企業にはゆとりがなく即戦力の従業員を雇うということが多いようである。なかなか若い人は入れられないという状況は先々やはり不安があるという企業が多いようだが、そういう突破口は何かないものか。センターでもこのような事に関し相談はあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 余りないと思う。センターの例で言えば、任期付き研究員という制度があり、例えば5年で研究成果を出していただくという目標を持って雇用する形態である。このような即戦力も必要だが、やはり育てることもしていかないといけない。(センター)
副井委員長	<ul style="list-style-type: none"> 研究員の現在の募集状況はどうか。非常に人材が集まる状況なのか、なかなか適当な人材が集まらない状況なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験地は東京、大阪、鳥取とやって、大学の助教授や研究所の研究員も受けに来られる。しかし合格通知を出した後にキャンセルが多い。センターの技術的なレベルの問題なのか、周辺環境の問題なのかその辺は原因が明らかでない。(センター) 今回少し年齢制限を下げて若い方を探って、今の科長レベルの研究員が育てながら長く一緒に研究に携わってもらえるような人が良いと思っている。(センター) また、緊急性があれば、任期付き研究員を公募したいと思っている。(センター)

第19回地方独立行政法人鳥取県産業技術センター評価委員会 出席者名簿

【委員】

区分	氏名	所属名	役職名
委員長	副井 裕	国立大学法人鳥取大学	学長顧問
委員	谷口 義晴	日本セラミック株式会社	代表取締役社長
委員	辻 智子	日本水産株式会社	生活機能科学研究所長
委員	房安 寿美枝	いなば和紙協業組合	総務部部长

【地方独立行政法人】

氏名	役職名
村江 清志	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター理事長
向井 保	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター理事
山本 誠	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部長
山田 強	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部企画室長
蔵内 康雄	地方独立行政法人鳥取県産業技術センター企画管理部総務室長補佐

【事務局（鳥取県）】

氏名	役職名
山根 淳史	商工労働部長
山下 喜夫	商工労働部産業振興総室産学金官連携室長
富山 哲明	商工労働部産業振興総室産学金官連携室副主幹